

悠久の時を超えて、山と生きる。

伐って、植えて、育てる。そして、命を生かす…

ドキュメンタリー映画

# 木

KIKORI

# 樵

語り：近藤正臣

監督・撮影：宮崎政記 プロデューサー：益田祐美子

出演：面家一男 瀧根清司 澤和宏 他 テーマ音楽：「久遠」「日月」日景健貴

構成協力：大宮浩一 北里宇一郎

制作協力：山田貴敏 笠原木材(株) 岐阜県 高山市 飛騨市

配給：平成プロジェクト 宣伝：ウフル 原麻里奈 宣伝協力：博報堂 BREAD IWASAKIDA I

協賛：日本特殊陶業 新東通信 イオスコオペレーション

ワーキング SURROUND 名古屋木材 山翠舎 高山信用金庫

製作：2021「木樵」製作委員会



# 山を護り、山と生きる木樵たちの物語

—山を育む男たちの今と未来—

「日本人ははるか昔から、山の恵みを暮らしに役立ててきた。  
木樵は、木を伐りだすだけでなく、森を育て、寡黙に生きている。

「私たちが…目には見えない根っこの大切さ、  
重ねた年輪への感謝を忘れずにいたいものだ」

歌手 **北島三郎**

森林教育を担う立場からも、この映像を通じ、  
普通であり続けながら、少し明日に向かいながら、  
大自然と共に生きる素晴らしい職業分野の存在を多くの若者に感得して欲しい。

岐阜県立森林文化アカデミー 学長 **涌井史郎**



本作の監督である宮崎政記は岐阜県下呂市で生まれ、“木樵”である父の背中を見て育つ。戦後の復興から東京オリンピック、大阪万博。高度経済成長期を支えた木材の需要は絶頂期を迎えたが、時は流れ、林業は長い不況を迎える。父の跡を継ぐことを断念した宮崎は山を離れ、映画の道を目指した。

それから30年、宮崎は父に抱いた憧れを胸に岐阜の山へと帰郷し、父と同じ木樵の兄弟、面家一男・瀧根清司に出会う。機械化が進んだ近年は林道を作り、機械を現場に入れて木を切り出すことが多い。しかし彼らはそれをしない、山が荒れないよう架線を引き木材を選び出すのだ。「木を伐ることは誰でもできる、問題はそれらを土場まで出す技術で、それを俺たちは持っている。」

木樵たちはその仕事に誇りを持っていた。彼らの背中を見て育つ若い木樵たち、兄弟の顔に林業不況や人手不足に対する悲壮感などは全く無かった。木樵見習いとして過ごして2年、宮崎は彼らの「生き様」を映像に残したいと思いつく。これは、その記録である。



テーマ音楽 **日景 健貴**

秋田県出身。音楽クリエイター。  
2013年に独学でギターを始め、DAWを使った作曲家として活動中。

音楽アプリ「nana」のオリジナル曲コンテストにて、多くの作品の中から優秀作品に選出され、同アプリの公認クリエイターとして活動している気鋭の若手作曲家である。

2020年には初のオリジナルアルバム『美的情操』、2022年にはセカンドアルバム『Localize』を配信リリース。本作のテーマ音楽として書き下ろされた「久遠」「日月」が収録されている。



語り **近藤 正臣**

1942年京都府出身。俳優。1966年デビュー。NHK大河ドラマ「国盗り物語」「真田丸」NHK連続テレビ小説「カーネーション」「あさが来た」など多数の作品に出演。ドラマの撮影で岐阜県の郡上八幡を訪れた際に、橋の上から見た景色の美しさに感動し、この地に魅せられる。その後郡上八幡に移住し、現在も暮らしている。

●コメント

木樵の日常、山の中で生きている人の姿を通して、私たちがこれまで見逃してきた「豊かさ」を再確認してくれる、人間的あたたかさを感じる映画。この映画を通して、命を生かす「木樵」の存在を意識しながら、もっと山に入ってほしい。これからは、地球温暖化防止にもつながる持続可能な林業へ、日本の木材を最大限有効活用していく活動につながってほしいと願います。

ドキュメンタリー映画 **木樵** KIKORI

10月14日(金)  
～10月23日(日)

東京

有楽町イトシア イトシアプラザ4F  
テアトルシネマグループ  
ヒューマンラストシネマ有楽町  
03 (6259) 8608 ttcg.jp

東京

10月21日(金)より  
池袋駅西口・東武百貨店隣接ルミネ池袋 8F  
テアトルシネマグループ  
シネ・リーブル池袋  
03 (3590) 2126 ttcg.jp